

大豆技術情報 第3号

令和2年7月
富山市農業協同組合
富山農林振興センター

「確実な培土と排水対策」「早めの雑草対策」「的確な病虫害防除」を徹底し、品質・収量の高い大豆づくりを目指しましょう！！

排水対策

- ◇2回目の培土が終了していないほ場では、可能な限りほ場が乾いている時に行い、株元にしっかりと土をかけましょう。
- ◇培土作業でできた溝と額縁排水溝は必ず連結して排水口につなぎ、ほ場に停滞水を残さないようにしましょう。

雑草防除

◇培土後も残草がみられた場合は、雑草の種類や生育状況、また大豆の生育状況を確認し、適期に除草剤を散布しましょう。

表1 大豆の生育期処理除草剤

対象雑草名	薬剤名	使用時期	使用方法	10a当たり散布量	使用回数
1年生イネ科雑草 (スズメカサネを除く)	ポルトフロアブル	イネ科雑草3～10葉期 (収穫30日前まで)	雑草茎葉散布	薬量 200～300ml (水 50～100ℓで希釈)	1回
1年生広葉雑草 (イネ科を除く)	大豆バサグラン液剤	大豆2葉期～開花前 雑草生育初期～6葉期(収穫45日前まで)	全面散布	薬量 100～150ml (水 100ℓで希釈)	
		大豆の生育期 雑草生育初期～6葉期(収穫45日前まで)	畦間雑草茎葉散布	薬量 300～500ml (水 100ℓで希釈)	
1年生雑草	バスタ液剤* (非選択制除草剤)	本葉5葉期以降、雑草生育期 (収穫28日前まで)	畦間・株間処理	薬量 300～500ml (水 100ℓで希釈)	3回以内

※バスタの散布では吊り下げノズルを用い、大豆に薬剤がかからないよう注意して散布してください。



表2 帰化アサガオ類・イヌホオズキ類等に対する除草剤の効果

草種	茎葉処理剤				茎葉兼土壌処理剤
	選択性	非選択制			ロロックス
	大豆バサグラン液剤	バスタ液剤	ザクサ液剤	ラウンドアップマックスロード	
帰化アサガオ類	▲(種間差あり)	○	○	▲	▲(種間差あり)
ヒユ類	▲(種間差あり)	○	○	○	○
イヌホオズキ類等	▲(種間差あり)	○	○	○	○

注1) ○：効果が高い、▲：効果が劣る

注2) 登録内容(適用、使用方法等)を確認して使用する。また、非選択性茎葉処理除草剤は、周りの作物にかからないように散布する

病虫害防除

～適期の病虫害防除により、高品質な大豆に仕上げましょう！～

表3 病虫害防除

防除体系	防除時期の目安		対象病虫害	薬剤名	使用時期	10a当たり散布量
随時	7月下旬～8月上旬 (葉が巻き始めたら)		ウコンノメイガ	サイアノックス粉剤	収穫7日前まで	4kg
				プレバソンフロアブル5	収穫7日前まで	希釈倍数 4,000倍 使用液量 150～300ℓ
基本(1回目)	莢が伸びきった頃	8月10日頃	紫斑病・カメムシ類	スミチオンベルコート粉剤 DL	収穫21日前まで	3kg
基本(2回目)	1回目の10日後	8月20日頃	紫斑病・カメムシ類	Zポルドートレポン粉剤 DL	収穫14日前まで	3kg

※防除の際は、農薬使用基準を必ず守り、風向き等に注意し、周辺への飛散防止に努めましょう。

令和2年度 富山県農薬危害防止運動(6/15～9/14)

～農薬は 周りに配慮し 正しく使用～